

平成21年10月1日

第67号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rirya.maff.go.jp/kanto/>



天狗ノ庭から望む火打山（新潟県妙高市）

（撮影者：上越森林管理署 下平 善文）

美しい森林づくり

森林整備に向けた取組について

森林整備部 森林整備課

私の視点

小根山森林公園のボランティアによる森林整備について

群馬県林業技士会 会長 遠藤 八郎氏



森林整備に向けた取組について

森林整備部 森林整備課

森林は地球温暖化を防ぎ清らかな水を育み私たちの暮らしを災害から守る国民生活及び国民経済の安定に不可欠な「緑の社会資本」です。森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させ健全な森林として次世代へ継承しなければなりません。

関東森林管理局では、国民の期待



健全なスギの人工林

にこえる管理経営を目指して、本年4月、「森林の管理経営の指針」を改訂しました。この指針に基づき国有林野の森林整備について、「重点的に発揮させるべき機能発揮の観点から望ましい森林資源の状態を維持し、又はこれを誘導するため、個々の国有林野における林況や社会的要請等を踏まえて、伐採や造林の方法、施設の整備の内容を適切に選択し、きめ細かく実施する。」こととしました。

国有林野の管理経営の実施に当たっては、公益的機能の維持増進を旨とし「美しい森林づくり」の推進を通じて、地球温暖化の防止や生物多様性の保全をはじめとする国民ニーズに応えた多様で健全な森林の整備等に取り組んでいます。

地球温暖化防止対策に貢献する森林整備

京都議定書に基づく我が国の温室効果ガス削減約束6割を達成するためには、3・8割分の森林吸収を確

実に達成することが不可欠です。このため、管内の3割を占める人工林を健全に整備していくため、除伐、保育間伐、本数調整伐等の森林整備を着実に進めています。

特に、戦後造成された人工林は、40～50年生が多く、これらの整備を計画的に実施していくことが必要です。このため、間伐等の実施に当たって伐採の可否、方法の手助けとなる事項を取りまとめた「人工林における間伐等の手引き」を作成したところであり、本手引きを活用し目指すべき森林へ効果的に誘導してまいります。また、必要な路網整備に努めてまいります。

獣害対策等の取組

近年、ツキノワグマやニホンジカによる立木の剥皮被害が多発しており、年々拡大の傾向にあります。このため、クマ等による森林被害の効率的な把握、被害が及ぼす林木の成育への影響、被害区分の設定及び森林被害情報の収集等を行い、被害にあった森林の今後の取扱や防止対策に役立てることを目的とする「平成20年度クマ等による森林被害現地調査（水沼地区）」を群馬森林管理署管内で実施しました。

調査の結果から、クマによる剥皮被害が水沼地区国有林内の広い範囲に点在していることが確認され、その被害は幹の直径が太くなるほど割

合が高くなること等が分かりました。これらの調査結果を今後の適切な森林施業及び効果的な被害対策に活用していきたいと考えています。

入札の公平性及び品質の確保

森林整備の業務の発注に際しては、競争性の確保、公平性、透明性、品質確保の観点から、一般競争入札を拡充しているところです。とりわけ総合評価落札方式については、土木事業に加えて本年9月から造林及び素材生産事業においても導入したところであり、適切に運用して参りたいと考えています。

このように「美しい森林づくり」のための森林整備として、「百年先を見据えた森林づくり」に積極的に取り組んでまいります。



ツキノワグマによる剥皮被害

赤谷プロジェクト 近況報告



中央部撤去予定の治山ダム

茂倉沢治山事業現地取材について

赤谷プロジェクトでは、溪流の上流と下流の連続性を確保し、自然本来の溪流環境を復元する試みとして、今年度実施する茂倉沢治山事業において、老朽化した治山ダム群の一つを中央部分3分の1を基礎部分から撤去する改修工事に着手しました。

この取組は、防災と溪流環境の復元の両立を目標としたもので、全国的に見ても前例がないことから、マスコミ関係者の関心も高く、9月2日(水)に地元上毛新聞沼田支局と毎日新聞前橋支局の記者が現地取材に訪れました。

当日は、赤谷センター及び局・署

治山事業担当者から、赤谷プロジェクトや茂倉沢治山事業の経緯・概要等について、現地の様子を交えて説明を行いました。

治山ダムの中央部撤去工事は、10月中旬以降完成する予定ですが、工事完了後は、幅広くプレスリリースを行い、現地説明会を開催する予定です。

府中市緑の活動推進委員研修会

9月3日(木)、東京都府中市で「身近な自然と歴史的風土を組み合わせた周遊コースの選定」などに携わっている、府中市緑の活動推進委員の皆さんが、研修会プログラムの一環として「赤谷の森」に現地視察に訪れました。

今回、訪れるきっかけとなったのは、赤谷プロジェクトの自然環境モニタリング会議の専門家から紹介されたからとのこと、都市部の方々



「協働」の取組に高い関心がありました。

へも赤谷プロジェクトの認知度が高まってきていると感じられました。現地では、「いきもの村」や赤谷川周辺において赤谷プロジェクトの取り組みなどを説明しましたが、特に地元や自然保護団体と協働で自然環境の回復に取り組んでいる点に大きく共鳴してもらえました。今後とも協働による森づくりのモデルケースとして、各方面にPRしていきたいと考えています。

水生昆虫観察会の開催

9月13日(日)、赤谷プロジェクト地域協議会が主催する第2回目の「ムタコの日」が開催され、地域の住民を中心に約40名が参加して、ムタコ沢の水生昆虫観察会を行いました。

当日は、赤谷プロジェクト地域協議会から森林に棲む生き物や水生昆虫の生態、赤谷センターから赤谷プロジェクトの取り組みを説明した後、3班に分かれ、ムタコ沢下流の西川に移動して、上流と下流の水生昆虫の比較を行いました。

その結果、カワゲラやトビケラの幼虫などの水生昆虫の他、トウホクサンショウウオやカミキリムシなどに寄生するハリガネムシも発見でき、カワガラスの飛来も確認できました。普段なじみが薄い川の生き物と接し子供たちは大喜びでした。今後もこのような機会を通じて、



どんな虫がいるのかな？



カジカも捕まえました。

地域住民の方々にも水と森林の関係について関心を高めていただければと願っています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

新任幹部を 紹介します。

10月1日付け(一)は前任

関東森林管理局

▽森林整備部 森林整備課長 岩佐 利昭

(下越森林管理署 村上支署長)

森林管理署

▽磐城森林管理署長 米田 雅人

(四国森林管理局 計画課長)

▽下越森林管理署 村上支署長 藤原 寿昭

(天竜森林管理署 次長)

私の視点

小根山森林公園のボランティアによる 森林整備について

群馬県林業技士会会長 遠藤 八郎

小根山森林公園は、群馬県安中市松井田町横川字大平国有林に、明治37年、今から105年前に林業試験場（現森林総合研究所）の試験地として開設され、面積約90畝のエリアに、植栽後100年を越えるスギやモミ、ケヤキの他、70年生以上のトチュウやドイツトウヒ、ストロウブマツといった外国産樹種を含め64種もの樹木が現存し、多様な樹種を一箇所で見ることが出来る、学術的にも貴重な場所です。



歩道の整備



間伐指導林の標識設置

小根山森林公園の整備については、平成12年度の「ふれあいの森」が始まりで、平成17年度からは群馬森林管理署との新たな協定に基づいた森林整備を、年2回のペースで実施しております。

整備に当たっては、技士会会員の他、ボランティアを募つての活動となつており、一般の方に、森林・林業に対して理解を深めてもらう好機と考えております。

作業内容は、間伐や下枝伐り、除伐、標識類の設置、パンフレットの作成等と多岐に亘つており、また、森林公園ということもあって、訪れる人が快適に公園を利用できるように、散策路からの見通しや、伐採した木を見栄えよく処理するなどの工夫もしております。

ボランティアの方々には、回ごとに人数もまちまちですが、バラエティ



イチイ人工林の下枝伐り



平成20年秋に実施した森林ボランティア活動参加者

に富んできている感じを受けます。毎回、作業終了後きれいな表情は、達成感と適度の疲労が相まって、ちょうどマラソンランナーがゴールした後の表情に似ていると感じます。

この活動を通じ、多くの方とふれあつて感じたことは、森林に対する国民の要請は時代とともに変化していると言われますが、森林の持つ様々な機能は不変であり、「森があつたればこそ」変化する要請にも応えられるという事です。

小根山の貴重な森林を、引き続き多くの方に利用していただくとともに、森林公園として相応しい森林整備を群馬森林管理署のご指導の下、ボランティアの皆さまとともに、引き続き実施していきたいと考えております。

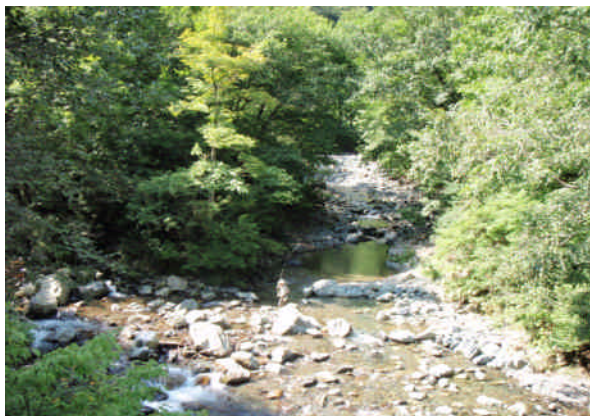
群馬県林業技士会は、林業技士活動の活発化に努めるとともに、会員の技術の向上、相互の親睦と連絡及び強調をはかり、もつて林業技士の地位の向上と地域林業の発展に寄与することを目的としています。

このような主旨のもと、当会では会員のための研修会、講演会の開催及び広報誌の発行等を行っています。

また、最近では小根山森林公園などにおいてボランティア活動で間伐などの森林整備を行い、地球温暖化防止の森林づくりにも積極的に取り組んでいます。

森林官からのあたより

会津森林管理署南会津支署 こばやし 小林森林事務所 星 國 雄



黒谷の溪流

当森林事務所は、福島県の西部に位置し南会津支署管内のほぼ中央部にあり、支署管内の面積約11万㊦のうち約1万7千㊦の森林を管理しています。

当部内の只見町黒谷川流域は、全国的に知られ遺伝子学的にも貴重なブナの天然林が広く分布しており、ここから流れ出る豊富な水資源を利用するため、世界一の規模を誇る圧縮空気でふくらます取水用のゴムダムがあります。

また、当森林事務所部内の北東部にある「恵みの森」は、原生のブナ林や延長4km以上にも及び一枚岩の沢と数々の滝、木の化石、巨樹巨木の水辺林など、すばらしい自然が残る森として、平成15年にそのうちの約470㊦を地元只見町と「郷土の森」の協定を結んで保護と活用を図っており、地元地域の広報活動もあり毎年多くの人々が訪れています。

さらに、現在居住者がいる只見町太田地区の奥へ約7km入ったところには江戸時代中期に50～60年間木地師が暮らしていた布沢太田木地師集落跡があります。ここには屋敷跡、用水堀跡、土蔵石、精米に使用した石臼などが各所に残っており、当時の生活を知る貴重な遺跡として、只見町の文化財として保存されています。



黒谷川本流の取水ダム(ゴムダム)

このような自然環境の中、日常の業務ではさまざまな方と接する機会があり、山への案内・内容の説明や安全指導などのほか、時には山づくりの説明をすることもあります。

森林整備の面では、二酸化炭素吸収源対策などによって、これまで十分に手入れが行き届かなかった森林も整備できるようになり、すばらしい森林に生まれ変わってきています。

特に豪雪地帯の会津地域の立木は、格好だけは一人前に成長しても、雪の影響で根曲り、中折れ、先折れなど、何らかの成長被害を受けているものが多く、平地地帯の美男美女の立木に比べれば年だけはとっていても木材として一人前に扱ってもらえない悲しさがありました。

現在は、森林は地球環境に役立つことが分かってもらえてとてもうれしく思っています。

いずれ、どのような木材でも資源の有効利用を図るため使用しなければならない時期が来ると思われます。その時のためにも、広葉樹林も含めた育成整備をしていかなければならないと考えます。

他の産業では難しくても、地球温暖化対策として確実に成果をあげられるのが森林づくりだと思っていますので、これからも整備が必要な森林には十分に手をかけ、大事に育てていきたいと考えています。



「恵みの森」入り口



木地師集落

管内の百名山「火打山」



高谷池の草紅葉と火打山

火打山(2,462㍎)は、新潟県糸魚川市と妙高市にまたがる頸城三山の最高峰で、焼山(やけやま)、妙高山と並んで上信越高原国立公園内の名山です。

火打山への登山コースは、南側の笹ヶ峰口からの往復コース、百名山の妙高山と結んで訪れるコースが一般的ですが、火打山西側の影火打を経由して焼山へ縦走するコースが平成18年12月から入山規制解除となったところです。



火打山山頂

火打山山頂からは、北アルプスをはじめ遠く南アルプス、富士山などの大パノラマと佐渡島まで見渡せます。頂上付近は傾斜がさほど急でなく、冬期間は日本海からの季節風による豪雪で真っ白な姿を見せます。

冬の豪雪は夏まで雪渓として残り、春にはスキーを楽しむ多くのスキーヤーが訪れ、夏には雪解け水が湿原を潤し、池澆を満たします。火山ではない火打山は高山植物の種類が多く豊かなお花畑を育みます。

特に、標高2,100㍎にある高谷池(こうやいけ)付近には天狗ノ庭などの湿原が存在し、シーズン中には高山植物を楽しみにした多くの登山者やカメラマンが訪れています。

また、日本では、中部山岳の高山しか見られないライチョウも自然豊かな火打山に生息していることから、上越森林管理署では、平成20年度から827㍎を「火打山周辺ライチョウ特定動物生息地保護林」に設定し、保護に努めています。

当署管内には、火打山の他、日本百名山の妙高山、高妻山、雨飾山があることから、今後も地元自治体、ボランティア団体等と連携・協力しつつ、保全管理活動を積極的に展開していくこととしています。

(上越森林管理署広報広聴連絡官)



高谷池



ミウコウトリカバ

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

申込締切 平成21年11月12日(木)
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

電話番号 042(663)6689
申込方法 往復ハガキに参加希望者
全員の住所・氏名・年齢
電話番号、返信名の宛名
を記入のうえ、「クラブ
体験係」あてに「応募
ください。」

実施日 平成21年12月1日(火)
実施場所 高尾森林センター
募集人員 20名程度 参加費2千円
申込先 高尾森林センター
(応募者多数の場合は抽選)
〒193-0844 八王子市高尾町
2438ノ1



森の恵みでクラフト体験
木の実で飾るクリスマスリース

参加者募集